

清水の

豪援隊かわら版



清水ヒデキ

豪援隊長・

弁護士・移民コンサルタント

(MARN: 9900985)

「オーストラリアから日本を援けよう」と豪援隊発足。16歳に単身オーストラリアに留学。その後ボンド大学卒業後、QLD州弁護士資格取得。長年に渡り、日本人ならびに日系企業、世界各国のクライアントのコンサルタント業務に従事。

<今月のジョーク！>

真実なんていくつもあるんで、別に6つじゃなくてもいいのですが、きっと少ないほうがややこしくなくていいのかもしれない。ただはっきり言えるのは、人生の真実を求めている人は多いと思います。

ある人生の真実をご紹介します。

真実1. 自分の舌ですべての自分の歯に触れることはできない

真実2. きっと大半の愚か者は、真実1が本当か試している

真実3. 真実1は真っ赤な嘘である

真実4. きっとあなたは自分の間抜けさにニヤニヤしている

真実5. もうすぐあなたは別の愚か者にこれを教えようとする

真実6. あなたはまだニヤついている

むしろ真実でないほうがよかったという例です。ええ、世の中の真実なんてこんなもんです。

今日も、さっさと仕事を終わらせましょう。

(商売心理学 より)

<今月の視点>

皆様、あけましておめでとうございます。今年も昨年同様のご最良よろしくお願ひいたします。

当然の如く、南半球は北半球とは季節が逆です。北半球では年末年始といえば冬の最中ですが、オーストラリアでは真夏です。クリスマスの時期になりますと各地のショッピングセンターでは真っ赤な服をまとったサンタさんが子供たちと写真をとっている様子を見かけます。あの、サンタさんの厚ぼったい格好を見る限り、やはりクリスマスは冬のほうがしっくりくると思うのは筆者だけではないのでは。

「利己的な遺伝子」

正月早々少し難しい話を一つ。「利己的な遺伝子」というものをご存知でしょうか？この説はイギリスの動物行動学者であるリチャード・ドーキンス博士が1976年に唱えた理論であります。この理論、単純に申しますとすべての生物の選択、進化は遺伝子中心に行われてきたということです。それは、動物で例えるなら孔雀のオスがメスへの求愛を行う際にきれいに羽を広げて、自分の美しさを示したり、オスのアザラシが自分のハーレムを守るために他のオスと自分の強さを示すために戦いを繰り返したり、こおろぎが自分の鳴き声にてメスへの求愛を行うことも、すべて遺伝子が自己の存続を図るために自己保存、そして優秀な遺伝子との交配により、今後自らの遺伝子の持続の可能性を高めようとするということです。

医療の発達した近代社会では、太っていると何かと肩のせいまいことありますが、あまり医療の発達していないアフリカの奥地ではお尻の大きな少し太った女性が好まれるといいます。これも「利己的な遺伝子」という理論からしますと、そうしたぼっちゃりした健康的な女性と子供を作ったほうが子供が健康に生まれ育つ可能性が高まるという点で遺伝子が人の好みに影響を与えるということです。

よく「内なる声」という表現を聞きますが、ひょっとしたらこれも「遺伝子の指示」のことを指すのではと思うことがあります。昨年いろいろな方から様々なご相談をいただきました。海外移住という一大決心をされる方たちの、ここ最近いろいろなお話をお聞きするたびに感じますのは、日本で暮らすことへの不安、子供の将来の心配という理由で移住を決心される方が増えていることです。

(右上に続く→)

少し前までであれば、オーストラリアに移住する人はオーストラリアの温暖な気候とか、物価が安い、ゴルフが安いから等のオーストラリアに対するポジティブな理由で決められた方も多かったですが、現在ご相談を受ける方たちからのお話をもっと深刻のような気がします。オーストラリアが良くてというよりも、日本から離れたいのだという理由が強く感じられます。すなわち、日本に対するネガティブな理由で決めるということです。特に女性の方たちの、「何となく」という気持ちが現在の海外移住押している気がします。母の子を思う気持ちが、子供を育てる場所を日本でなく海外に置きたいと考えているということです。「女性の本能」、これは正に「利己的な遺伝子」と言えるのかもしれない。

今年も皆様のお役に立てるように精一杯頑張っまいますので、よろしくお願ひします。

今年の大予想

2013年は皆様にどういった年になるか、今から楽しみです。そこで、今回は筆者が誠に身勝手な独断と偏見から2013年オーストラリア大予想です。(注:根拠もまったくない予想ですので、くれぐれも信用なさらないように。)

第一位:連邦政府選挙労働党敗退。自由党政権返り咲き。これは、特にすごい予想ではないかもしれませんが。すでに地方選挙での結果ならびに両政党の支持率の変移を見ますと、よほどのことがない限りは起こりうる状況に思われます。

第二位:ギラード首相クーデターにより、首相の座を追われる。まるでシェークスピアのようですが、元々ギラード首相自身は前ラッド首相を真夜中のクーデターで首相の座から引き摺り下ろしたといういきさつがあります。今年に行われる選挙前に今のギラード首相では十分に選挙が戦えないという労働党諸氏がギラード首相を引きずりおろして、新たな首相と選挙戦を戦うということが考えられます。えっ、誰が首相になるかって？Bill Shorten 議員は結構面白いかなあと思いますが。

第三位:異常気象

オーストラリアだけではなく、世界中が異常気象の被害を受けるかもしれません。特に、日照りによる被害が内陸部では深刻化するかもしれません。現在もすでに山火の被害が深刻です。(次のページに続く→)

第四位:オーストラリア経済停滞

オーストラリア経済は世界経済の影響を受け今年いっぱい停滞。肯定歩合は1.5%まで下がり、失業率も上昇。豪ドル高は4月以降に豪ドル安に方向転換していくのでは。

第五位:WBC オーストラリアが決勝で日本に敗退して準優勝。今年はまだ野球の世界選手権があります。そこで、オーストラリアと日本が決勝で戦ってなんて、これはまったくの希望ですね。両チームにがんばってもらいたいものです。

どんな一年になるにせよ、身の回りの幸せを感じつつ、日々穏やかに生きていきたいものです。皆さん、また一年頑張りましょう。

<今月の注目記事 その1>

Swan dumps budget surplus

(Swan 財相黒字予算をあきらめる。)2012年12月21日 ABC News より

昨年末になりますが、Swan 財相が3年前の選挙勝利後に公約をしていた2013年度までに国家予算を黒字に戻すことができなくなったと、「敗北宣言」をしました。景気減速のなかで、税収の見込みが予想以上に少なかったことを理由にしています。今年度7月から4ヶ月の間で\$4,000,000,000(40億ドル)(3400億円相当)の税収減であったことを認め、この状態では予算を黒字に戻すことは不可能であることを発表しました。

まだ半年残っているこのタイミングでなぜ「敗北宣言」なのかというのが、多くの人の反応でしたが、予定でいけば今年末総選挙を控えている政府としたら2013年度の予算の実際の結果が赤字として出てしまう今年中旬よりお祭り騒ぎになってニュースとしても続かないであろうクリスマス前に発表することで、ダメージが最小限に食い止められるということと同時にダメージコントロールを選挙まですることができるといのが狙いです。

ここ数年、目に見えて減速しているオーストラリア経済の中で現政府の黒字政策は金融緩和の必要を叫ぶ声が多い中、「労働党の経済迷走」として労働党離れを引き起こしている原因がありました。その方向修正をこの「敗北宣言」にて見事に行ったわけです。選挙までに現政府としては、混迷しているオーストラリア経済の舵取りを無難に行うことで選挙戦を戦おうとしています。

黒字に戻すためにかなり予算を削った今年度。黒字にできないこと自体は、最初から国民をあまり期待していなかったのが問題ないというのが実際のところですが、そのために削られた社会保障等の影響を受けた不平不満がたまっている人や景気の減速を招いた原因を現政府と考える人が多くいるのが現状です。この状況において、どこまで現政府がダメージを修復できるかが今後の見所です。

<今月の名言>

【価値観は言葉以上に、実行している人の姿によって伝えられる。】

同じ事柄でも価値観によって受け取り方が変わる。子どもには、愛と思いやりのある価値観を伝えたい。

【子どもは親や教師の「いう通り」にはならないが、「する通り」になる。】

子どもに何かを伝えるのに言葉はいらない。ただ、誠実に努力して生きていくだけでいい。

「置かれた場所で咲きなさい」 渡辺和子著 より

<今月の注目記事 その2>

世界的統計によればオーストラリアは世界で2番目に生まれたい国 (Australia ranked second-best country to be born in, global survey finds) 2013年1月4日付 News.com.au より

2013年早々「どこの国に生まれたいか」という世界的な調査を行った結果が発表され、オーストラリアはスイスについて2位という結果がでたことが伝えられていました。この調査は政治情勢、気候、犯罪率、家族のあり方、平均寿命等、13の項目から80カ国がその調査の対象となりました。その反対に住みたいくない(産まれたくない)国ワースト1として選ばれたのがナイジェリアだそうです。

1988年に行われた前回の調査ではオーストラリアは11位。(その際の第一位はアメリカ。)前回と比べると大躍進のオーストラリアですが、前回第一のアメリカは大16位まで落ちてしまっています。日本は10位以内入っておらず、アジアの国として入っているのはシンガポールと香港のみです。

ランキング抜粋したものは以下のとおりです。

生まれたい国ベスト

- 1 スイス
- 2 オーストラリア
- 3 ノルウェー
- 4 スウェーデン
- 5 デンマーク
- 6 シンガポール
- 7 ニュージーランド
- 8 オランダ
- 9 カナダ
- 10 香港
- 16 アメリカ合衆国
- 27 英国
- 34 ギリシャ
- 66 インド
- 80 ナイジェリア

<今月の言葉>

「これを知る者はこれを好む者に如かず、
これを好む者はこれを楽しむ者に如かず」

よく知っている人は、それを好きな人にはかなわない。
それを好きな人は、それを楽しんでいる人にはかなわない。

(論語より)



このかわら版、またはビザに関する質問、お問い合わせは、こちらまでお気軽に！

ALC ビザコンサルタント

QLD 州以外の方にも、ご利用しやすくなりました！

ゴールドコースト事務所 住所: Suite7, 155 Varsity Parade Varsity Lakes QLD 4227
シドニー事務所 住所: 24 Lewis Way Newington NSW 2127

電話: 1300 365 811, +61-7-5630-6505, Fax: +61-7-3319-6131 (担当: 関)

E mail : info@alcvisa.com Website : www.alcvisa.com

東京事務所 (担当: 生田・松本)

〒170-0013
東京都豊島区東池袋
4-25-12 池袋今泉ビル 6F

電話: +81-3-3985-6003

Fax: +81-3-3985-6009